

1 課題名 栽培漁業推進対策事業

2 区分 県単

3 期間 昭和59年～

4 担当 増養殖部（濱地寿生・井川拓也）  
資源海洋部（土居内 龍）

5 目的

栽培漁業の推進を図るために対象種のマダイ、ヒラメ、イサキ、アワビ類について放流種苗の混獲状況を把握し、放流効果を検討する資料とする。

6 成果の要約

(1) 調査方法

ア 放流種苗調査：マダイ・イサキは鼻孔隔皮の欠損、ヒラメは無眼側の体色異常を標識として放流種苗の有標識率を調べた。

イ 漁獲物の標識魚混獲率調査：マダイは雑賀崎漁業協同組合（以下、漁業協同組合は漁協と略記する）、湯浅湾漁協湯浅中央本所に水揚げされた0歳魚の標識魚（鼻孔隔皮欠損魚）の混獲率を調べた。

ヒラメは雑賀崎漁協、湯浅湾漁協湯浅中央本所、比井崎漁協、紀州日高漁協南部町支所に水揚げされた魚の標識魚（無眼側体色異常魚）の混獲率を調査した。

イサキは和歌山南漁協田辺本所に水揚げされた魚の標識魚（鼻孔隔皮欠損魚）の混獲率を調べた。

アワビ類は、和歌山東漁協下田原支所において水揚げされたメガイアワビの殻頂部を削り人工種苗由来のグリーンマークの出現割合を調査した。

(2) 成果の概要

ア 放流種苗調査：マダイの有標識率は和歌山市加太放流群（平均尾叉長 $80.4 \pm 5.7$ mm, 調査尾数188尾）で、23.9%と前年の13.6%に比べ増加した。

ヒラメ放流種苗の有標識率は由良町放流群（平均全長 $58.9 \pm 7.7$ mm, 調査尾数153尾）、みなべ町放流群（平均全長 $80.8 \pm 9.1$ mm, 調査尾数266尾）とも100%であり、調査した放流種苗すべてに無眼側の体色異常が認められた。

イサキの有標識率は田辺市放流群（平均尾叉長 $55.2 \pm 6.8$ mm, 調査尾数160尾）、すさみ町放流群（平均尾叉長 $45.1 \pm 4.1$ mm, 調査尾数120尾）の加重平均が31.5%と前年の19.1%から増加した。

イ 漁獲物の標識魚混獲率調査：マダイの混獲率については、秋期以降0歳魚の漁獲が少なく、標本魚の入手が110尾にとどまったためか標識魚はみられなかった。

ヒラメの混獲率は、雑賀崎漁協（11～3月、調査尾数294尾）で5.8%、湯浅湾漁協湯浅中央本所（周年、調査尾数904尾）で14.0%、比井崎漁協（9～3月、調査尾数517尾）で12.2%、紀州日高漁協南部町支所（9～3月、調査尾数4,233尾）で4.1%と湯浅湾漁協湯浅中央本所、比井崎漁協では前年に比べ増加していたが、雑賀崎漁協、紀州日高漁協南部支所では減少した。

和歌山南漁協本所におけるイサキの標識魚混獲率（4～3月、調査尾数759尾）は0.7%で前年の0.4%に比べ増加した。標識魚は合計5尾で、内訳は3歳魚3尾、4歳魚1尾、5歳魚1尾であった。

和歌山東漁協下田原支所におけるメガイアワビの混獲率は（調査数263個体）は、66.9%で前年の62.3%から若干増加した。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

各々の調査で各漁協に赴いた際に漁協職員や漁業者に調査結果の概要を説明した。

(2) 成果の発表

和歌山県栽培漁業推進協議会